

令和4年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:8月17日(水)

会場:田幸コミュニティセンター

参加者数:29人

参加者の発言	市の発言	備考
JAとコミュニティセンターが隣接しており、田幸地区の拠点となっている。来年4月にJAが広域合併すると、土地や建物が処分され、田幸地区の拠点がなくなるおそれがある。田幸地区の地域拠点としての機能を維持するため、市で、建物等の取得を積極的に進めてほしい。同時に、境界線の確認をしてほしい。	JAの「ほほえみ館」は、地域の人が集まりやすい施設と聞いており、地域の拠点であると理解している。JAが所管していることから、JAの意向を伺いながら、田幸地区にとってかけがえのない施設であることを伝えていく。田幸地区の課題として、進捗状況を報告し、取組を進めていきたい。	8月19日状況確認
特定地域に予算を使うことはやめてほしい。また、遊休資産の固定費など、不要不急のものから整理し、財務の見直しをしてほしい。甲奴地区の「ゆげんき」は素晴らしい施設であり、大事な資産として利用促進してほしい。	計画的に、公共施設等の整理をしている。将来的な管理経費を抑えられるように、実際に利用されていない施設や利用率が低い施設、あるいは統合することで効果が出るような施設などの見直しをかけている。例えば、よっしや吉舎には、児童クラブや自治連合会、商工会、文化ホールなどが入っており、有効活用いただいている。また、三良坂支所も、施設の合理化を進めている。公共施設を利用率が低いものから整理をして、廃止をするという際には、地元の皆さんと今後の活用方法について意見交換させていただきたい。今後、管理経費を抑えながら、必要な事業が実施できるように財源を捻出していきたい。	
田幸地区のまちづくりビジョンの改定作業を進めている。本日、市長から、市政について話を聞いたが、実行してもらえるのか気になる。期限を設けるなど、計画的に実行してもらえば、素晴らしいと思う。そうすれば、住民との信頼関係をもっと築いていけるのではないか。		
県道系井塩町線には、高校、中学校、小学校、保育所がある。三次青陵高校付近は離合ができない状況である。生活・通学・通勤において重要な道であるが、拡幅に時間がかかっている。塩町中学校は、生徒数も多く、他学校区からきている生徒もいることから、安全の確保が課題である。進捗状況を教えてほしい。	県道系井塩町線は、課題であると認識している。三次青陵高校の入口付近はカーブして、見通しが悪いことから、法線を変更して、改良工事の準備を進めている。しかし、遺跡があり、埋蔵文化財の調査が必要なため、改良時期が遅れている。	
内水対策として、排水ポンプを2台設置し、安全安心な地域づくりを進めていただいております。感謝しています。田幸地区では、集落支援員が8月に誕生し、順調に活動を進めている。	新任された集落支援員と連携しながら、様々な取組を実施していきたい。	
昨日、田幸保育所での3歳未満児保育の充実を求める陳情書を提出させていただきました。	田幸保育所における3歳未満児保育の拡充について、昨日、自治会長や保護者会長とお話させていただいた。地域の一体的な取組によって、若い人の定住者や田幸保育所への入所を希望される世帯が増えていることは認識している。拡充していくためには、保育所施設の改修と、保育士の確保という2つの課題がある。市全体として、保育士を募集しても応募が少ない。皆さんのネットワークやつながりを活用させていただき、改善できないか模索している。引き続き、田幸地区が笑顔溢れる地域になるように、一緒になって取り組ませていただきたいと思います。	
三次青陵高校の駐輪場付近の木が大きくなり、歩道にも枝がはみ出し、防犯灯を隠している。中国電力に相談しても、電線ではないので無理と言われた。秋は落ち葉で、冬は雪で滑って危ないので、市で切るなどの対応をしてほしい。	県道の件については、場所を再確認し、今後の対応を検討していく。特に、冬場は危ないことから、できる限りの対応を考えていく。	支障木については、車道に影響を及ぼしている箇所は、早急に対応するように心がけている。
保育所の隣の空き家が崩れて、危険である。草刈りをするにしても危ない。また、小動物が住んでおり、衛生的によくない。保育所をリニューアルすることも含めて、整備してほしい。	市内には危険空き家の問題があり、市民の皆さんから情報をいただいている。市費を活用して解体する事業もあるが、老朽度などの判断が必要となる。まずは、所有者等に対応していただく。なお、保育所のリニューアルは別の話として、ご理解いただきたい。	

令和4年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:8月17日(水)

会場:田幸コミュニティセンター

参加者数:29人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>元気な三次づくりには、若者や子どもたちが必要であり、その人たちへの支援をしてほしい。自分たちではできないことに力を貸してほしい。</p>	<p>三次市から転出された方から、三次市の子育て支援制度の充実を実感したと聞いた。今後も、子育て支援を継続して、定住につなげていく。また、情報発信をすることで、若者が帰るきっかけになるように取り組んでいきたい。 みよしまちづくりセンター内にアシスタラボを設置し、女性活躍のための支援を行っている。引き続き、ライフスタイルに合わせた働き方を可能にする取組や自ら仕事を作ることができる環境をサポートするための施策を進めていく。現在、地方が注目を浴びるとともに、価値観の変化があることから、田幸地区に関係する人などを増やし、若い人たちに興味を持っていただくための仕掛けをしていく。</p>	
<p>・田幸地区の給食調理場が残らなかったことは残念であるが、新たにできる調理場で、これまでの田幸地区の取組を取り入れてほしい。田幸小学校では、年1回、保護者も給食を食べる機会として、給食試食会があったが、今後も設けていただけるのか。また、調理場の職員が、コロナ陽性者となり、お弁当を持参しなければならない事態が生じたが、調理場の統合により、市全体の小学校の給食がストップしてしまうおそれもあるのではないかと。学校給食の試食会に行った際に、当番の子どもが生産者の説明をしてくれた。また、苦手なものを頑張って食べようとしていた。授業の中で、田幸地区の米づくりやピオーネなどについて学ぶことで、日常生活でも農産物に興味をもつようになる。 ・田幸地区の給食センターは、小学校や保育所の給食を作っており、地産地消を通じて、安心して食事ができる環境づくりをしている。毎月、小学校や保育所のニーズに合わせるため、生産者と話し合いをしている。以前、給食センターの食材生産者は多い時で20人ぐらいおられたが、現在、3軒ほどである。新しい給食センターには出荷しやすくしてほしい。</p>	<p>・田幸地区のふるさとランチの取組は、子どもたちにとってかけがえのないものであり、給食から学ぶ、給食に感謝する、給食で成長するという、学ぶ・感謝する・成長するというを育まれている。保護者の皆さんには、給食試食会を通じて、子どもたちがどのようなものを食べているのか知っていただく機会になる。また、生産者の顔が見える取組は、子どもたちにとって必要であると思う。新しい調理場でもその取組を継承していきたい。 ・出荷について、持続可能性を考慮して、一定の量と質を確保しなければならない。今後、地産地消の観点から検討を進めていく。</p>	
<p>保育現場の方々の声を聞く機会が多く、現場の方は非常に疲れていると感じる。例えば、障害がある子への専門知識がなく、不安があると聞いた。保育所で専門知識を学ぶ研修会もあるが、業務との兼ね合いから、大変だとも聞く。保育現場に足を運んでいただき、保育士の現場の声を聞いてほしい。三次市で保育士をしようと思う人が増える取組をしてほしい。</p>	<p>本市では発達支援センターを設置し、保育と研修を行っている。保育現場では個別の対応が必要な場合もあることから、保育士の研修会を通して、子どもたちへの接し方などについてスキルアップをしてもらうように、取り組んでいる。 保育士の労働環境などについては、様々な課題があるが、改善を図ってきたところである。現場の皆さんとしっかりと話をしながら、今後の参考にさせていただきたい。今、保育所の業務の中でICT化を進めており、働き方の改革も含め、現場と話をしながら進めていきたい。</p>	
<p>農業ヘルパーを実現させたい。農業は、子育てをしながら、農家や地域の方と関わる機会があり、魅力を感じている。市内の人たちに求人のがわかれば、学生など元気に働ける世代の方にも関わってもらえる。また、子育てをされている方々が働きやすい環境を生み出せば、農業を支えていけるのではないかと。今、総務省の制度で、県から認可を受けて、派遣業ができる「特定地域づくり事業協同組合制度」を検討している。田幸地区で育ってきた方々のことをもっと知りたいし、皆さんの思いを受け継いでいきたい。</p>	<p>特定地域づくり事業協同組合については、調査研究をしている。島根県海士町が協同組合制度を導入された。仕事を求めている人と仕事をしてもらいたい人とをマッチングする取組は可能性があるのではないかと。引き続き、地域の情報を市役所に提供してほしい。農業を含めた色々な働き方について、情報収集していきたい。</p>	